

四、マライ方面部隊

馬來俘虜收容所

昭和	年	月	日	略	歴
一七	七	七	一	軍令により馬來俘虜收容所編成下令	
	七	一五		南方各收容所要員(將校、下士官、通訳等)	
				宇品港出帆	
	八	八		昭南島上陸	
	八	一五		編成完結(マライ)	
				南方総軍の隷下に入り昭南島「チャンギト」に本部を開設、島内数ヶ所マライ	
				「クアラランポトル」「スマトラ」島の「メダン」「パレンバン」に各々分所を	
				開設	
				俘虜監視員として朝鮮軍属到着	
				朝鮮軍属の監視法を教育の上各地分所に配属	
				所長福永真平転出、後任有村恒道少将来任	
				英「パンシバル」中將以下大佐以上の白人俘虜を台湾收容所へ転送移管	
				泰緬鉄道建設に参加、泰緬国境「ニーク」に分所開設鉄道司令部の指揮に入り鉄	
				道五連隊に配属す。	

特設才六十二機關砲隊（岡才一二四五七部隊）

年月日	略歴
昭和一九 八 一一	軍令により特設第六十二機關砲隊編成下令
九 一七	編成完結（舞鶴）
一〇 一	門司港出帆
一〇 一二	昭南港着
一〇 一八	昭南港出発
一〇 二〇	スマトラ、パレンバン上陸
	以後同地の防空警備
二〇 五 一八	パレンバン港出発
二〇 五 二〇	昭南島上陸
二〇 五 二五	昭南出発
二〇 六 八	馬來、ニホンテバル着同地防空警備
二〇 七 二五	ニホンテバル出発
二〇 七 二六	馬來、泰国境通過
二〇 七 二八	泰国シンゴラ着

1000

0060

昭和二〇	八	八一五	爾後同地附近の防空警備
	九	二	停戦
	一一	一一二	終戦
	一一	一一四	シンゴラ、ハチヤイ出発
	一一	一一六	泰馬国境通過
	一一	一一〇	スンゲバタニ着
	一一	一一二	スンゲバタニ出発
	一一	一一五	レンガム着
	一一	一一九	レンガム出発
	一一	一二〇	シンガポール着リヴァアアレ作業隊に入る
	一一	一二〇	内地帰還のためシンガポール港出帆
	六	二	佐世保港上陸
	六	二	復員完結

独立有線第九十七中隊 (岡九一五八〇〇部隊)

年月日	略歴
昭和一六 九 〇 八	電信第一連隊第四中隊編成下令 編成完結 (相模原)
一〇 九	南方派遣のため東京港出帆
一〇 二一	南支、広東省黄埔港上陸
	同日より同地附近の警備
一一 二二	黄埔港出帆
一二 八	泰国「シンゴラ」上陸
一二 一〇	泰馬來国境通過
自一九七 二四	爾後馬來、シンガポール攻略、「スマトラ」揆定作戦に参加 連隊本部を昭南におき一部「ビルマ攻略戦に参加、スマトラ、馬來、泰国南部に 各駐留す
一九 二 二〇	編成改正により独立有線第九十七中隊と改称
一〇 二〇	第三通信隊の隷下に入る
二〇 八 一五	停戦

昭和二〇	九二	終戦
二二	一〇	北部馬來労働第二十二大隊に編入
六	六二〇	内地帰還のため「シンガポール」港出帆
六二二	二〇	佐世保港上陸
		復員完結
		(注)部隊を二分し一部は「レンパン」島に集結の上復員す

第十八軍馬防疫廠（岡才九二八五部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一六 一〇 一〇	軍令により第十八軍馬防疫廠編成下令
一〇 二〇	編成完結（輜重兵第七連隊において）
一一 一二	旭川出発
一一 一八	大阪港出帆
一一 二四	基隆港上陸
一七 二二	高尾港出帆
一七 二三	仏印西貢港上陸
三 四	西貢港出帆
九 一八	昭南港上陸
九 二四	爾後昭南附近の警備並に軍馬防疫に従事
二〇 八 一五	停戦
二〇 八 二五	第十二兵站病馬廠が当防疫廠に合流
二二 二 一四	シンガポール港出帆
三三 二 二	大竹港上陸

昭和二一 三 三

復員完結

(注) 復員は以後数回に分れ

22、6、20

までに完了す。

南方軍防疫給水部（岡才九四二〇部隊）

年月日	略歴
昭和一七 四 一	軍令により南方軍防疫給水部編成下令
五 五	編成完結（南京）
六 一	南方派遣のため上海港出帆
六 七	比島マニラ寄港
六 二〇	昭南港上陸
	爾後昭南にありて防疫給水業務に従事
一八 四 一五	昭南出発
四 二〇	タイ国「カンチャナブリ」着
一〇 一五	カンチャナブリ出発
一〇 下旬	昭南帰着
	爾後引き続き防疫給水業務に従事
二〇 八 一五	停戦
九 二	終戦
一一	レンバン島に移駐

	昭和二一	五	一	
		五	一九	内地帰還のためレンバン島出帆
		五	二〇	名古屋港上陸 復員完結

陸上勤務才七十四中隊 (岡才四八三四部隊)

年月日	略歴
昭和一六 九 二七	軍令により陸上勤務第七十四中隊編成下令
一〇 一〇	編成完結(水戸)
一〇 一九	東京芝浦港出帆
一一 三	仏印海防港上陸
一二 二五	泰仏印国境通過、第二十五軍の隷下に入る
一二 二七	盤谷着
一七 一 六	泰馬来国境通過、馬来作戦に参加
三 二五	爾後タイピン、イポー、クアラランプール附近の警備
三 二五	昭南に移動、第七方面軍の隷下に入る
二〇 八 一五	一部兵員はスマトラ、ビルマ、タイ、ボルネオに在つて各々作戦に参加す 停戦
二二 六 二八	終戦後英軍の作業隊に編入さる
七 一三	内地帰還のためシンガポール港出帆 宇品港上陸

昭和二三 七一四

復員完結

(註)内地帰還は21年6月頃より始まり遂次復員す。

南方軍經理教育部（岡才一〇三四五部隊）

年月日	略歴
昭和二七 一〇 三一	軍令により南方軍經理教育部編成下令 編成完結（昭南）
一七 一一 一一	爾後南方軍經理部幹部候補生及經理部下士官候補者の現地教育に任ず
一八 六 六	昭南市「タンクリン」に於て教育開始
二〇 八 一五	昭南市「ブキテマ」に移駐
九 二 二	停戦
八 末	終戦
三三 六 下旬	英軍の進駐に伴ひ部隊要員及び入隊中の幹候、下士候全員「ジヨポール」州に移動南方軍作業隊に編入主として「チャングー」「セレター」「クルマン」に分散作業に従事
七 七一	内地帰還のため「シンガポール」港出帆
七 一一	宇品港上陸
七 一二	復員完結

才四十六師団戦車隊（静才一二五〇〇部隊）

年月日	略	歴
昭和一八 一一 三		軍令により第四六師団戦車隊編成下令
一一 一〇		編成完結（久留米）
一一 一八		久留米出発
一一 二〇		南方派遣のため門司港出帆
一九 一一 二〇		ジャワ島バタビヤ上陸
一一 三〇		小スンダ列島スンバ島上陸同島の警備
二〇 二一 一〇		スンバ島出発
二〇 三一一〇		昭南上陸同地附近の警備
八 一五		停戦
九 二		終戦
一〇		レンバン島へ移駐
二一 五 一三		内地掃還のためレンバン島出帆
五 一九		名古屋港上陸
五 二〇		復員完結

独立歩兵第一四八大隊（嶽才一〇九一九部隊）

年月日	略歴
昭和一八 一〇 二〇	第四十五兵站警備隊編成完結（高崎）
一〇 二二	南方派遣のため高崎出発
一〇 二七	門司港出帆
一一 一六	軍令陸甲第一〇六号に依り独立歩兵第四百四八大隊編成下令
一一 一七	「スマトラ」島「パレンバン」上陸
一九 一 八	第四十五兵站警備隊を改編し独立歩兵第四百四八大隊編成完結（「スマトラ」島「テロクベトン」）
二〇 六 一八	爾後南部「スマトラ」「ランボン」州「テロクベトン」附近の警備
二〇 六 二一	転進のため「パレンバン」出発
	昭南港上陸
	爾後昭南島の警備
	停戦
	終戦
昭和二一 六 三	内地帰還のため「レンバン」島出帆

昭和二一

六一四
六一五

名古屋港上陸
復員完結

部大長

大佐

山本

強雄

8800

-67-

0074

第十一特設鉄道運輸隊（岡才五八二二部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一六 一〇 七	軍令により第十一特設鉄道運輸隊編成下令
一〇 二〇	編成完結（千葉）
一〇 二六	千葉出発
一〇 二八	大阪港出帆
一一 八	仏印、海防港上陸
一一 二二	仏印、泰国境通過
一七 一 三一	泰馬国境通過
二 一〇	シンガポール攻略作戦に参加
五 二二	転進のため昭南港出帆
五 二〇	「ビルマ」「ラングーン」港上陸
	爾後ビルマ鉄道輸送業務に従事
二〇 五 一七	緬泰国境通過
六 一一	泰馬国境通過
七 六	昭南着

	昭和二〇	八一五	停戦
	九	二	終戦
	一	九	「レムバン」島集結
二	四	二九	内地帰還のため「レムバン」島出発
五	五	九	名古屋港上陸
五	一〇		復員完結

5X60

0076

独立自動車才二二四中隊（岡才二八六一部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一六 八 九 二 五	軍令により独立自動車第二二四中隊編成下令 編成完結（宇都宮）
一〇 一 六	南方派遣のため東京港出帆
一一 一 一	仏印 西貢上陸
自 一 八 六 一 一 一 〇 二	南部仏印地区輸送業務に従事 「マライ」転進のため西貢出発
二 一 四	泰仏印国境通過
二 一 七	泰「マライ」国境通過
二 一 九	昭南着
二〇 八 一 五	爾後昭南島、「マライ」地区の輸送業務に従事 停戦
九 二	終戦
二 一 六 一 六	終戦後「レンバン」島に集結 「シンガポール」港出帆

	昭和二一 六二七
	六二八 復員完結 大竹港上陸

才四六師団經理勤務部（静才一一九七〇部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一八 一〇 一一 一〇	軍令により第四六師団經理勤務部編成下令 編成完結（熊本）
一九 一一 一二	南方派遣のため門司港出帆
二 二 一	瓜哇島ジャガルト上陸
四 四	瓜哇島スラバヤ港出帆
二〇 一 一	小スンダ列島フロレス島マウメラ港上陸 同島の師団補給のため現地自活 ス号作戦参加のためマウメラ港出帆
二 一	米機の攻撃により輸送船撃沈されフロレス島レオに上陸 フロレス島ラバンシヨウ出帆
四 五	スンバワ島サベに上陸
四 八	スンバワ島ビマ港出帆（巡洋艦五十鈴） 米軍の魚雷攻撃を受け乗船沈没により瓜哇島スラバヤ上陸
五	瓜哇島ジャカルタ港出帆

昭和二〇	五	昭南港上陸
	八	爾後シヨポールバルに駐屯同地附近の防衛に任ず
	一五	停戦
	九	終戦
	一一	部隊レオ諸島レンバン島に集結
	五	内地帰還のためレンバン島出帆
	五	名古屋港上陸
	五	復員完結
	二六	

昭和二三
二
四

以後シンガポール、チャンギ刑務所に収容さる
復員完結

(注) 一、戦争犯罪容疑の晴れた者及び刑を終えた者より逐次帰還す。

刑に処せられた者、刑を科せられた者については留守名簿記載のとおり
二、終戦前特別工作隊を編成(長以下15名)し対共産党敵落下傘部隊に対す
る情報収集に当たったが、終戦と同時に解散し、原所属に復帰した。

患者輸送才九十八小隊（岡才一八五三〇部隊）

年月日	略	歴
昭和二〇 二	三	軍令により患者輸送第九十八小隊編成下令
三	三	編成完結（昭南南方第一陸軍病院に於て）
三	三	昭南出発、第二十九軍司令官の指揮下に入る
八	一五	北部マライ、アロルスター着
九	二	爾後同地附近において患者輸送業務に従事
一〇		停戦
一一		終戦
二二	二四	英軍進駐スングバタニー飛行場に収容さる
六	二四	マレーを南下シンガポールにて軍医、衛生兵は陸軍病院に復帰
七	一八	其の他の人員はレンバン島に収容さる
七	一八	内地帰還のため、シンガポール港出帆
七	二〇	浦賀港上陸
		復員完結
		隊長 中尉 斎藤延雄

才九十四歩兵団司令部（威烈才一八五一四部隊）	
年 月 日	略 歴
昭和一九一一年一月一五 一二二〇 二〇 八 一五 九 二 二二 一一 二	軍令により第九十四歩兵団司令部編成下令 編成完結（マライ、クアランプール） 爾後馬來半島の警備に任ず 停戦 終戦 終戦後英軍指揮による勤勞隊に編入各種作業に従事 復員完結

才四十六師団輜重隊（静才一一九六七部隊）

年月日	略歴
昭和十八年 十一月 二	軍令により第四十六師団輜重隊編成下令
十一月 一〇	編成完結（熊本）
十一月 二一	南方派遣のため門司港出帆
十二月 二四	瓜哇島スラバヤ寄港
三月 四	スラバヤ出帆
三月 七	スムバ島ワインガブ上陸同島の警備
三月 一三	スムバ島出帆
四月 一八	昭南港上陸
八月 一五	爾後ジョホール、パールに駐留同地附近の警備
九月 二〇	停戦
九月 二〇	終戦
九月 二六	レンバン島に移駐
五月 六	内地帰還のためレンバン島出帆
五月 一九	名古屋港上陸
五月 二〇	復員完結

年 月 日	略 歴
昭和一八 四 一九	馬來軍政監部編成完結（昭南）
一九 一 二九	編成改正により従来の馬來の馬來軍政監部を第二十九軍軍政監部と改称 軍政監部設置以後馬來半島内の行政を担当す
二〇 八 一五	停戦
九 二	終戦
一〇 三〇	馬來バハン州リビスにて武装解除
二一 六 四	内地帰還のためレンパン島出帆
六 一五	名古屋港上陸
六 一六	復員完結

年 月 日	略 歴
昭和一九二二 一一二〇	軍令により第十六野戦輸送司令部編成下令 編成完結（馬來クラランプール） 爾後部隊輸送業務に従事
二〇 一八 九	二 一五 二
	<p>終戦後シンガポールに於て英軍の作業隊に編入さる。</p> <p>（注）内地帰還はシンガポール、レンガム島より数次に分れ復員す。</p>